

# 縮小社会研究会 琴平 講演会報告

— 社会の「持続発展」から「縮小」へ —

日時 4月26日(土)15:00

場所 香川県琴平町「琴平パークホテル」会議室 tel 0877-73-5888

演題 「縮小社会への道」

講師 松久 寛「縮小社会研究会」代表

参加者:19名、

地元で農業などに従事されている方が7名参加されました。それぞれが、現在の社会や農業に問題意識を持っておられ、縮小社会の意義を理解していただけました。そして、講演会のあとの懇親会で四国に支部を作ろうと言う話にまで発展しました。非常に有意義な講演会でした。

翌日は、会員12名が青野さんの竹林で筍掘りをしました。それぞれ、段ボール箱一杯の筍を収穫しました。あくのない柔らかい美味しい筍でした。また、昼には、筍一色料理をいただき、讃岐うどんを食べて解散しました。天候にもめぐまれ素晴らしい2日間でした。



## 縮小社会が目指すもの

松久 寛 (縮小社会研究会理事長)

いつまでも経済成長を続けることが不可能なのは、多くの人が認識している。しかし、遠い先のこととして目をつぶっている。地球温暖化、エネルギーの枯渇など遠い先のことが、目の前に迫ってきているが、なんとかなるだろう、私の生きているうちは大丈夫だろうと考えないことにしている。日本では、経済成長はすでに止まっている。国税庁の民間給与実態統計調査によると、サラリーマンの平均年収は1997年の467万円から2011年には409万円と58万円減少した。正社員が減り非正規社員が増えている。人口も減少し始めた。すでに、縮小に入っているのである。大量生産、大量消費という経済システムが、物があふれて機能しなくなったのである。にもかかわらず、経済成長を追い求めると、赤字国債という借金を増やすだけである。これは、放射性廃棄物と同様に次の世代へ付けを回すことになる。

毎年何%という経済成長を続けると、資源の残存可採年数は瞬間に短くなる。100年は持たない。残存可採年数を持続するには、例えば100年分の資源があれば、毎年1%ずつ使用を減らせばよい。発展途上国の成長に配慮し、先進国では2%ずつ減らせばよい。縮小の単純明快な目標である。それによって、将来の人の生存が保障され、かつ現在の人が幸せになる道を探すのが縮小社会研究会である。縮小というと、江戸時代に戻るのかと言われる。そんなことは不可能だし、その必要はない。毎年2%の縮小なら、30年後のGDPは現在の54%になる。これは、1980年代初期の数値である。技術の進歩や人口の縮小を考えると、そのころよりもずっと豊かな暮らしができる。

いま、日本人は毎日、石油換算で10リッター(L)のエネルギーを消費している。これは、カロリーでは10万kcalである。人間の必要カロリーが2000kcalであるので50倍になる。これの2%は、2000kcalまたは石油0.2Lである。一人あたり、日々

これだけ節約すれば、2%の縮小になる。たとえば、太陽火熱温水器なら4000kcal/day、太陽光発電なら8000kcal/day、3kgの木材を燃やせば石油1L、乗用車は10kmで石油1Lである。なお、これらは、製造にかかるコストを考慮していない。たとえば、乗用車の製造には石油1400Lが必要であるが、使用期間を10年ではなく、20年にすると、1日あたり0.2Lの節約になる。住宅も同様で、使用期間の50年と100年の差は毎日0.1Lの節約になる。これ以外に、電気製品の省エネも進んでいる。この10年で冷蔵庫やテレビは50%以上の省エネを実現している。しかし、買い替えるのと長持ちさせるのは相反することで、その見極めが大事である。さらに効果的なのが、使用量の縮小である。現に、この2年間で電力使用量は10%減少した。これによって、とくに不便になったわけではない。朝顔やゴーヤの日除けを楽しみ、歩くことによる健康増進を喜びとすればよい。

縮小は難しいことではない。縮小で幸せな社会を実現することができる。これには、まず、意識を変えることである。使い捨て、オール電化、大量生産・大量消費、24時間営業、・・・、これらは文明の象徴とされていた。しかし、それらは、人間の使い捨て、単純作業、深夜労働などとコインの裏表である。2012年のOECDの「より良い暮らし指標(幸福度指数)」では、日本は36カ国中21位である。これは、住宅、収入、雇用、共同体、教育、環境、ガバナンス、医療、生活満足度、安全、仕事と生活の両立、を評価指標としている。幸福度を上げるには、人間らしい労働を取り戻し、ワークシェアや社会保障の充実で分配の不平等を解消する必要がある。これは、決して難しいものではなく、ヨーロッパの福祉国家では実行されている。金と物だけでは幸せは得られない。

今まさに、破滅に至る経済成長の道か、縮小社会への道かの岐路にいる。私達だけの幸せから、子どもや孫の幸せまで視野を広げる必要がある。滋賀県の嘉田知事はもったいないというキャッチフレーズで当選した。私達の心の奥には、もったいない、丈夫で長持ち、知足などの言葉がある。